

# しゅよう 卵巣腫瘍

# ウーマン クリニック

WOMAN

西野レディース  
クリニック院長

西野 照代



にしよ・てるよ 昭和54年、兵庫医科大学卒。翌年より大阪回生病院、大阪大学医学部付属病院、大阪船員保険病院の勤務医を経て、平成4年より大手前病院産婦人科医長。平成17年に現クリニックを大阪市中央区に開院。

すが、卵巣は「静かなる臓器（サイレント・オルガ）」といわれ、自覚症状はほとんど出ません。例えば、かなり進行した卵巣がんの患者さんでも「何となくしんどい」「少しやせてきた」「お腹が張る」と訴える程度です。患者さんの年齢によっては、月経も規則正しく発来します。その上卵巣は、月経や排卵などの性周期や年齢により大きさに差があるので、正常と異常の判断が比較的難しいという特徴があります。

以前と比べ、

検診や人間ドックの普及で、

子宮がんは早期に発見、

治療され減少傾向ですが、

逆に卵巣がんの発生は増加して

います。排卵の回数が多いほど、

卵巣がん発生の危険性が高

くなるといわれており、

現代の著明な少子化傾向も

原因の一つではないかと思わ

れます。

婦人科で超音波を受けな

いと発見しにくい卵巣腫

瘍、保健所や人間ドックで

子宮がん検診を受けたから

大丈夫、月経も順調だしと

安心せず、年に1度は婦人

科の超音波検査を受けま

皆さんが婦人科を受診された際、医師は何に注意して診察するのでしょうか？子宮がん検診はもちろんですが、それ以上に大切なものに卵巣検診があります。鶏卵大の子宮の横に左右1つずつある、親指頭大の卵巣は、排卵をおこし、女性ホルモンを分泌する臓器で、子宮と同様良性・悪性の腫瘍（しゅよう）が発生します。

子宮の疾患では出血を伴うことが多いため、婦人科を受診する機会も多いので

卵巣に液体が貯留する卵巣嚢腫（のうしゅ）、子宮内膜症に由来する卵巣チョコレート嚢腫などの良性腫瘍や、子宮がんと比べ、より悪性度の高い卵巣がんは、超音波による検診でないとほとんど発見できません